



→一週間ぶりにスカイツリーがきれいに見えた。シャープペンシルの芯のように、電波塔部分が押し出されている。511mを越えた。先端にラツパ状のふくらみが見える。その先になにかがつくのだろうか。日々、ツリーは伸びる。



↑今年のトキワサンザシの実は一ときわ赤く見える。冬を彩る代表的な赤い実のなる木だ。

「そろそろ歳末モードなのかねえ」
バリアフリー工事が続く矢切の渡りで、ため息まじりに若舟頭がつぶやいていた。土日にもかかわらず、いつもの年より訪れる客が少ないという。
ブルーシートが江戸川兩岸の景色を占領していた。

初めて矢切を訪れた人にはなんでもない風景だが、半世紀ちかくここで暮らしてきた若にとつては馴染まない。

それでなくても冴えない師走。尖閣列島の映像が漏れた騒ぎがようやく治まりかけたとおもっていたら、中国漁船との衝突の模様が茶の間に飛び込んできた。

ふたたび日本のふがいなさを思い知らされた。若舟頭の鼻の穴がバクバクうごめいている。

アツ！

ダメだ。逃げられない。

「今夜は日露戦争があるんだよな」

エツ！

とか、驚いて口をはさんではいけない。ここは解説が必要だ。

日曜日の夜、NHK連続ドラマ『坂

今週のクマ

→クマはゴルフ場が大好きだ。連れて行くと真っ先にグリーンに駆け上がる。ごろんと横になって体をこすりつける。子どものころ、お爺さんに抱かれると、あご髭に頭をこすりつけて、キャッキヤと笑っていたことを思い出す。きっと気持ちいいんだろうな、クマも。



↑こちらは冬を代表する黒い実。小鳥たちに食べられて繁殖域を広げるには地味すぎるように見えるが、そうではないのだろうか。(クスの実)

の上の雲』で日露戦争の場面が放送される。その話題を話そうというわけだ。

「小さな島国が大国に勝った。あのころの日本人は気骨があつたんだよな」

それに引き換え、と続くのだろう。聞かなくてもあととはわかる。

さっさと若舟頭のもとを離れ、広場の隅のテーブルに向かうと、二人のお年寄りが肩寄せ合って焼き芋を食べていた。

「どちらから？」

「両国」

「近いじゃないですか」

「でもねえ、この年になって初めてなよ。これまで連れて行ってというと、仕事が一段落したら連れて行ったやるからといいなが、六年前にさっさと逝っちゃうんだもの。それでこの人と来たの」

「歌みたいですねえ」

「だといいんだけど」

友だちのご主人と一緒に来てもらったのだそうだ。

「これが見納めになるかもしれないからあなた、一緒に行ってきたらって。たのまれたの。連れて逃げてじゃなくて、連れて帰ってよくなの」

なんだ、聞かなきゃよかった。遠くから見ていたほうが美しいものもある。